

福島県PTA連合会会報
第49号_H11.07.10

P T A ふ く し ま

第 49 号
福島県 P T A 連合会
編 集 / 調 査 広 報 委 員 会
印 刷 / 泉 印 刷 所

さあ 夏だ！ 海で学び 遊ぶ 子どもたち



[写真提供] いわき市立豊間小学校



完全学校週五日制に 向けて

福島県 P T A 連合会 会長
早 川 敬 介

完全学校週五日制が平成十四年度に実施と目前に迫っています。これは皆様方ご承知のとおり、子どもたちの生活に「ゆとり」を確保し、家庭や地域社会での生活体験、社会体験、自然体験等の機会を与え、心身共により健全な子どもの育成を図ることを目的としています。

そこで文部省は平成十四年度からの学校週五日制が、ねらいにそって進められるよう各省庁とも連携するなどした共同事業を推進しております。

例えば「全国子どもプラン」地域で子どもを育てよう―緊急三ヶ年戦略―では、地域における子どもの体験活動の情報提供など体制の整備や子どもや親の悩みについての相談体制の整備、家庭教育ノートの配布等等、これまでの事業の充実と新たな施策が実施されています。

これまで福島県 P T A 連合会は関係機関や団体に対し、完全学校週五日制実施に向けての諸施策を要望して参りましたが、各市町村

P T A 連合会においても、一層の取り組みをお願いします。

私たちは、完全学校週五日制の目的にそった生活を、子どもたち一人一人ができるような環境づくりを早急に推進する必要があります。そのためには、地域社会ではどのような環境づくりが望まれるのかを物的な面ばかりでなく広くとらえ、その意義を共有することはもちろん、私たち大人のかかわり方を含め組織での話し合いが必要と思います。

私たち P T A は、家庭・学校・地域社会の三者を結ぶ懸け橋として、また連携の要としての任にあることの自覚をもち、積極的に行動していかねばならないと思います。

今日、家庭や地域の教育力低下が言われておりますが、この完全学校週五日制実施に向けて、教育力の回復と向上の絶好の機会ととらえていく必要があると思います。皆様方の真摯な取り組みを強く希望し、就任の挨拶とします。

県 P 連活動スローガン 『語り合い 分かり合い 確かな信頼関係を』

第三十四回

県PTA広報紙・学校新聞コンクール

晴れの表彰校

第三十四回小中学校新聞コンクールは、平成十一年四月十三日福島民友新聞社で、福島県PTA連合会、福島民友新聞社主催のもとで審査が行われた。

応募作品は、PTA広報紙七十六校(小五十八、中十八)学校新聞七校(小三、中四)が寄せられ以下の二十一校が入選した。

【PTA会報の部】

◆最優秀賞

- 「まつかわ」(福島・松川小P)
「しゃくなげ」(福島・岳陽中P)

◆優秀賞

- 「すずかけ」(楢葉北小P)
「すぎのめ」(福島・杉妻小P)
「城山」(福島・信夫中P)
「会報にしね」(福島・西根中P)
「薫だより」(郡山・薫小P)
「しらはぎ時報」(会津若松・謹教小P)

◆入選

- 「しゃくなげ」(福島・庭坂小P)

和多里

- 「睦」(福島・渡利小P)

「かわかせ」

- 「かわかせ」(会津若松・城西小P)

「やわらぎ」

- 「やわらぎ」(会津高田一中P)

「つるがおか」

- 「つるがおか」(梁川小P)

「たいわ」

- 「たいわ」(塙・常豊小P)

「西陵」

- 「西陵」(須賀川・西袋一小P)

「きくた」

- 「きくた」(いわき・菊田小P)

「げやき」

- 「げやき」(郡山六中P)

【学校・学級新聞の部】

◆最優秀賞

- 「久慈川」(矢祭中)

◆優秀賞

- 「清流」(石川中)

◆入選

- 「素直」(鮫川・渡瀬小)

「第三十五回小中学校新聞コンクール」のお知らせ

- 募集時期……平成十二年三月(会報五十号で募集案内の予定)
●募集方法……県内小中学校で発行する新聞または、PTAで発行する新聞で、平成十一年度中に発行したもの(学年・学級新聞も可)

岳陽中「しゃくなげ」

今回の受賞は、広報部員一人一人が個性的な発想を生かし、岳陽中学校のオリジナリティーを出したとと会員のニーズに合ったという願いをまとめた結果で、本當にうれしく思います。第六十八号は、長瀬純三先生をお招きしての教育講演会の特集でした。講演の内容は、子育てに関する生徒と親のアンケートをもとにしたお話でした。講演の内容をもとに、「岳陽中学校版子育て特集」を作成しました。親子の微妙な意識のズレや子供の優しい側面に思わず苦笑しました。また、学年を追うごとに知らない間に成長している子供たちの姿が見えてきまし

た。さらに、このことで親子のコミュニケーションを図ることができました。載せたいことを精選し、バランスよく紙面に配置することで苦労しました。第六十九号は、中学校時代の最大の関心事である高校受験について特集しました。「高校の向こうに見えるもの」と題して、長期的な視野に立った進路選択のお手伝いのできればという願いのもとに企画し、上級学校の仕組みや内容をわかりやすくまとめました。また、思春期の子供たちとどのように触れ合い、親子の絆を深めていくかについて、桜の聖母短大教授西内みなみ先生にお話を伺い、「偏差値

ではないでしょうか。子供たちの考え、お小遣いやお手伝いなど他の家庭ではどうしているのかなど、日頃知りたいと思っていることを調べたり、先生方にいるいるなテーマで原稿を依頼したりすると、違った一面を発見できるかもしれません。広報委員の特権で、我が子中心の写真を取り上げたりしてはどうでしょう。忙しい思いをしてがんばっているのだから、このくらいは許されてもよいのではないのでしょうか。今年度の広報委員の皆様、大いに楽しみながら新聞作りに励みましょう! (広報委員長 久能明美)

松川小「まつかわ」

『いじめ・不登校・キレる子供たち』私たち大人は、どれだけ子供供たちを理解しているのでしょうか。「何を考え、何を求めているのか。」子供たちの本音が知りたい。親の愛情にはいるいるあり、子育てにも多くのパターンがあります。それを皆様に伝えたい。そこからアンケート特集記事が始まりました。毎回テーマを決め、アンケートを作り、結果を集計し、それをまとめあげること、とても大変なことです。しかし、得るものもたくさんあります。子供たちの意外な本音、親の深い愛情、対話の大切さ、地域(社会)が、子供を育てる大切さなどがあげられます。

私たちが作った新聞が、問題をなげかけることにより、保護者の皆様が本気に考え、少しでも子供たちのためになれたら、そんな熱い思いを込めてがんばった一年でした。今回の受賞は、私たちへのご褒美なのかもしれません。本當にありがとうございます。ところで、皆様の学校では、PTA役員を決める際、広報委員はすぐ決まるのでしょうか。新聞作りの知識がない素人が、白紙の状態から広報紙を作りあげることとても大変なことです。そのうえ、集まる回数が多いので、広報委員の苦労は、並み大抵のことではないのです。でも、ものは考えよう

に負けない子育て」といった記事にしました。その他、卒業生に送る歌や言葉を、今回は手話で表現してみました。年度始めは、様々な心配もありましたが、取材を重ねるうちに、その労が多い分、部員同士の友情が深まり喜びを感じることができました。これも先生方、PTA会員の皆様の協力があったこそ、素晴らしい賞をいただいたものと確信しております。これからも身近な話題を提起し、心に残る情報伝達の役割を果たせたいと思います。(広報委員長 高野吉美)

平成11年度福島県PTA連合会役員一覧

- 会長 早川 敬介 (郡山市P連・会長)
- 副会長 齋藤 泰一 (安達地方P連・会長)
- 鈴木 雅文 (西白河郡P連・会長)
- 箕輪 達也 (会津若松市P連・会長)
- 國田 法應 (いわき市P連・会長)
- 鈴木 信光 (県小学校会長)
- 松本 忠清 (県中学校会長)
- 監事 佐藤 一好 (福島市P連・会長)
- 飯塚 康雄 (耶麻地区P連・会長)
- 武田 一奉 (相馬地方P連・会長)
- 日本P評議員 早川 栄二 (田村郡P連・会長)
- 阿部 保憲 (南会津郡P連・会長)
- 坂上 よし子 (母親代表)
- 母親代表 山田 和江 (県北)
- 今野 登志子 (県中・南)
- 坂上 よし子 (会津)
- 佐久間 一枝 (浜)
- 顧問 櫻井 和朋 (元会長)
- 芳賀 裕 (元会長)
- 山岸 清 (前会長)
- 理事(役員を除く) 藤原 清 (達南P連・会長)
- 宮口 昭一 (伊達地区P連・会長)
- 野村 重忠 (岩瀬地区P連・会長)
- 車田 悦夫 (石川郡P連・会長)
- 佐川 正一郎 (東白川郡P連・会長)
- 田中 茂 (北会津地区P連・会長)
- 猪俣 孝之 (両沼地区P連・会長)
- 長嶺 裕行 (大沼郡P連・会長)
- 藁谷 淳市 (双葉郡P連・会長)
- 米倉 安男 (県北ブロック代表)
- 嶋原 誠次 (県中ブロック代表)
- 遠藤 毅 (県南ブロック代表)
- 坂内 實 (会津ブロック代表)
- 横山 恒廣 (南会津ブロック代表)
- 木幡 恭一 (相双ブロック代表)
- 松本 久芳 (いわきブロック代表)

お知らせ

アニメ映画 『ハッピーバースデー』の上映会決定!

去る六月八日の評議員会において、標記の映画上映・観賞会を福島県PTA連合会の主催、福島テレビの共催で県内各市町村で実施することが承認されました。

実施にあたっては、各郡市P連をはじめ、各市町村P連の会長さん・役員の方々と事務局、そして会員の皆様の特段のご協力をお願い申し上げます。

なお、実施に関する具体的な協力内容等については、各郡市P連の事務局をとおしてお願い申し上げます。

この映画は、同名の原作本(昨年度中学生の読書感想文課題図書)に基づいて脚本し映画化されたものです。

内容は、母親からの精神的虐待によって心と身体に傷を負った主人公あすかが、祖父母(福島市在住の設定)の温かい愛情と自然にいやされて立ち直っていきます。

同時に、重度の障害のある少女とのふれあいを通して、一人一人の人間の命の尊さをも感じとっていくというものです。

実施計画の概要

- 一、目的

本会の活動スローガン「語り合い 分り合い 確かな信頼関係を」の具現と、親子(家族)の望ましい在り方や家庭・地域の教育力、さらには、心の教育の重要性とその育て方等について共に考え、研修し合い、親としての資質の向上を図る。

三、共催
福島テレビ

四、上映について
各市町村の公共施設

○会場 各市町村の公共施設

○期間 平成十一年九月から平成十二年三月まで

○入場料
大人 (前売)千二百円 (当日)千四百円
子ども (小・中・高校生) (前売) 八百円 (当日) 千円

五、各市町村PTAの活動内容
○開催のPR
○入場券の発売
○当日の受付
○その他

六、その他
○上映に際しては、最小入場数の制限はしない。つまり、実施目的の達成を最重要視したい。

○上映会場(開催市町村P連)ごとにその入場料の十%を開催市町村P連に返金する。その使途は、開催市町村P連に一任する。

二、主催
福島県PTA連合会

原作者は、横浜市教育委員会で

平成11年 夏の交通事故防止を

『広げよう ゆとりと視野と 車間距離』

のスローガンのもと、「平成11年夏の交通事故防止県民総ぐるみ運動」が、交通安全意識の高揚と交通ルールの遵守・交通マナーの実践を習慣付けることにより、県民総ぐるみで交通事故防止を図ることを目的として実施されます。

本会は、推進団体の一員となっております。保護者として、子どもたちを交通事故から守るとともに、子どもたちの模範となる行動や運転などに十分注意したいと思います。

■ 期 間

平成11年7月21日(水)～30日(金) 10日間

■ 運動の重点

- (1) 無謀運転・過労運転の追放
- (2) 子どもと高齢者の交通事故防止
- (3) シートベルトの着用徹底とチャイルドシートの着用促進

各家庭・学校・地域が一丸となって、事故防止に効果的な運動を展開されますようお願いいたします。

PTA今年度の主な行事

- 6月8日(火) 評議員会
 6月25日(金) 小中別懇談会
 // 常置委員会・理事会
 7月6日(火) 役員・総務合同会議
 ※ 8月20日～21日 日P愛媛大会
 8月27日(金) 母親代表者懇談会
 8月31日(火) 常置委員会・理事会
 // 映画「ハッピーバースデー」
 試写会
 ※ 9月10日～11日 東北・県P相馬大会
 《母親リーダーセミナー》
 9月17日(金) 県中・南(須賀川)
 21日(火) 会津(会津若松市)
 24日(金) 浜(檜葉町)
 28日(火) 県北(福島市)
 ☆ 災害事故防止習字・ポスター募集
 12月～1月
 2月10日(木) 役員・総務合同会議
 2月29日(火) 評議員会
 ☆ PTA広報紙・学校新聞コンクール
 作品募集 2月～3月25日

安全互助会から

今年度から、PTA安全互助会の学童補償の充実を図るため、傷害補償だけのコースを削除し、全コース学童賠償付きとなりました。

学童賠償とは、PTA管理下中・管理下外を問わず、日常生活における学童の行為によって生じた偶発的な事故(ただし、学校管理下中の事故は原則として対象外)により、学童または学童の監督義務者が被る損害賠償を補償します。

- 例えば
- 児童生徒が自転車で遊んでいてハンドル操作を誤り、停車中の車にキズをつけた。
 - 児童生徒がキャッチボールをしていて、民家の窓ガラスを破損させた。
 - 児童生徒が自転車で誤って他人にぶつかりケガをさせた。
- などです。

以上のような事故が発生した場合、速やかに県PTA連合会または共栄火災までご連絡ください。

福島県PTA安全互助会

TEL・FAX 024-545-5982

《提携損保》 共栄火災海上保険相互会社

〒960-8035 福島市本町5-5 殖銀フコク生命ビル7階

TEL 024-523-3507

FAX 024-523-3509